デジタル教科書「マイ黒板」にまとめた例①
「登場人物」からおもしろさをさぐる

トルトリの人物ぞう

＋

- ③ 水車屋のトルトリが、みまいに来ました。 p.70
- ③ 「おいらの言うとおりにすれば、おじいさんの病気はきっとなおるよ。」 p.72
- ③ 「そうじゃないんだよ。一度転ぶと、三年生きるんだろ。二度転べば六年、三度転べば九年、四度転べば十二年。このように、何度も転べば、うんと長生きできるはずだよ。」 p.73
- ③ 「どうすればなおるんじゃ。」おじいさんは、ふとんから顔を出しました。 p.72
- ④ おじいさんは、すっかりうれしくなりました。 p.74
- ④ ころりん、ころりん、すってんころり、べったんころりん、ひょいころ、ころりんと、転びました。 p.75
- ④ あんまりうれしくなったので、しまいに、とうげからふもとまで、ころころころりんと、転がり落ちてしまいました。 p.75
- ④ そして、けろけろけろっとした顔をして、「もう、わしの病気はなおった。百年も、二百年も、長生きができるわい。」と、にこにこわらいました。 p.75

おじいさんの人物ぞう

－

- ② おじいさんは、こしを下ろしてひと息入れながら、美しいながめにうっとりしていました。 p.69
- ② おじいさんは真っ青になり、がたがたふるえました。 p.70
- ② 家にすっとんでいき、おばあさんにしがみつき、おいおいなきました。 p.70
- ② 「ああ、どうしよう、どうしよう。わしのじゅみょうは、あと三年じゃ。三年しか生きられぬのじゃあ。」 p.70
- ② その日から、おじいさんは、ごはんも食べずにふとんにもぐりこみ、とうとう病気になってしまいました。 p.70

－

れいせいで頭のいい人。
思いやりのある人。
わかいのに大人っぽい感じ。

反対なのでおもしろい！

－

すなおで人の言うことを信じやすい人。
気持ちのゆれ動きがはげしい人。
おじいさんなのに子どもっぽい感じ。

デジタル教科書「マイ黒板」にまとめた例②
「物語の組み立て」からおもしろさをさぐる

登場人物

ーはじめ

②おじいさんは真っ青になり、がたがたふるえました。 p.70

②家にすっとんでいき、おばあさんにしがみつき、おいおいなきました。 p.70

②「ああ、どうしよう、どうしよう。わしのじゅみょうは、あと三年じゃ。三年しか生きられぬのじゃあ。」 p.70

②その日から、おじいさんは、ごはんも食べずに、ふとんにもぐりこみ、とうとう病気になってしまいました。 p.70

②けれども、おじいさんの病気はどんどん重くなるばかり。 p.70

ーおわり

④そして、ふとんからはね起きると、三年とうげに行き、わざとひっくり返り、転びました。 p.73

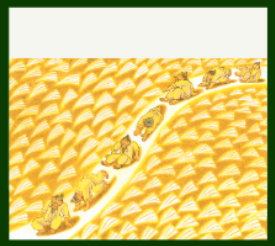
④おじいさんは、すっかりうれしくなりました。 p.74

④ころりん、ころりん、すってんころり、べったんころりん、ひょいころ、ころりんと、転びました。 p.75

④あんまりうれしくなったので、しまいに、とうげからふもとまで、ころころころりんと、転がり落ちてしまいました。 p.75

④そして、けろけろけろっとした顔をして、「もう、わしの病気はなおった。百年も、二百年も、長生きができるわい。」と、にこにこわらいました。 p.75

④こうして、おじいさんは、すっかり元気になり、おばあさんと二人なかよく、幸せに、長生きしたということです。 p.76



ーきっかけ

③「おいらの言うとおりにすれば、おじいさんの病気はきっとなおるよ。」 p.72

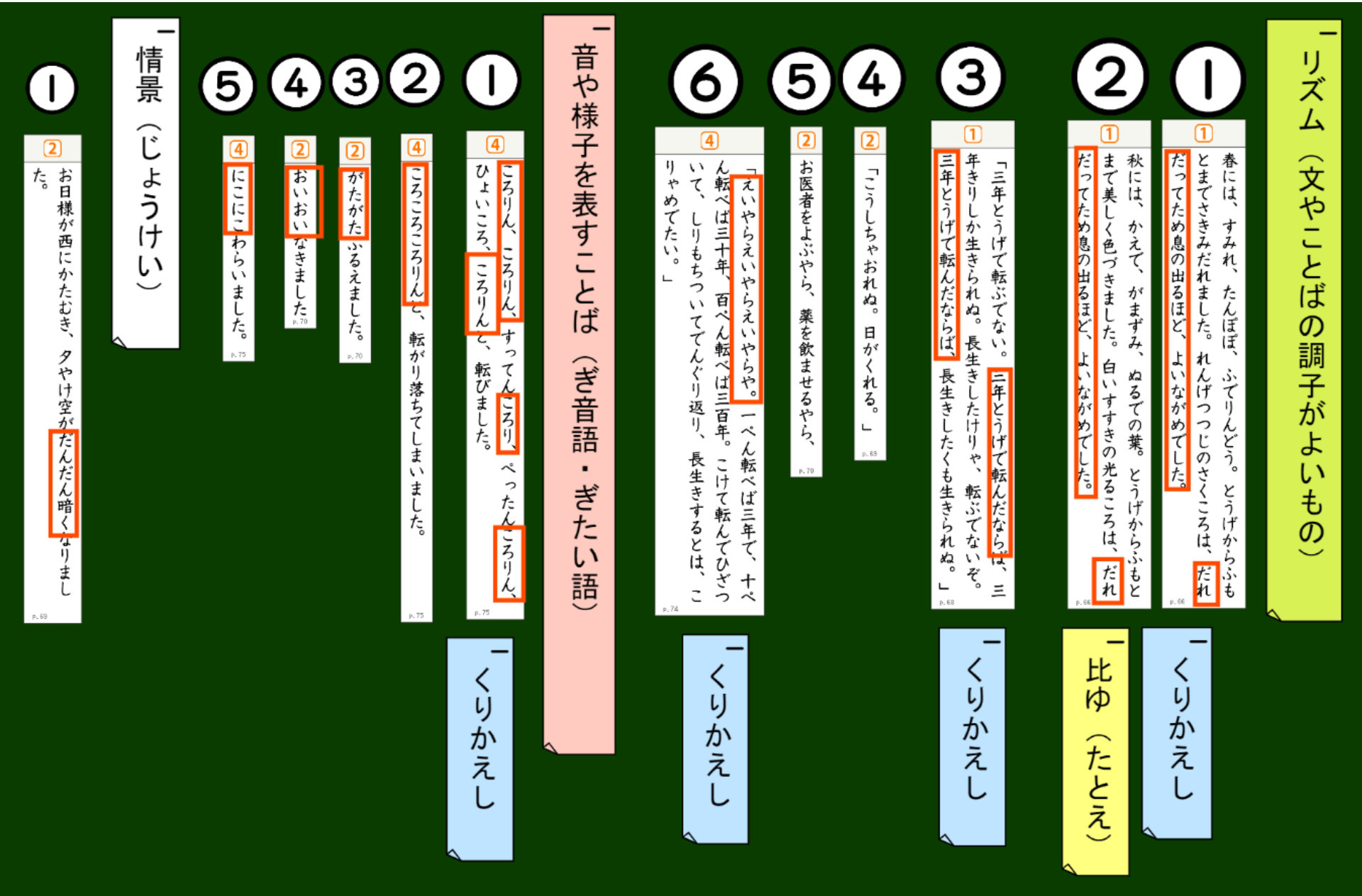
③「なおるとも。三年とうげで、もう一度転ぶんだよ。」 p.73

③「そうじゃないんだよ。一度転ぶと、三年生きるんだろ。二度転べば六年、三度転べば九年、四度転べば十二年。このように、何度も転べば、ううんと長生きできるはずだよ。」 p.73

ー作者がつたえたいこと

ーはっそうを切りかえることがたいせつ！

デジタル教科書「マイ黒板」にまとめた例③
「ことばの使い方」からおもしろさをさぐる



デジタル教科書「マイ黒板」のモデル①
「登場人物」からおもしろさをさぐる

太郎の人物ぞう

太郎はばあさまにいわれたことなど、なあにと思って、「行ぐなっちゃ、ガサガサ」と鳴っている方へはいっていった。

しばらく行くと、からすが巣を作っていて、「行ぐなっちゃ、ガアガア」と鳴いていた。太郎がそれでもかまわず進んでいくと、

大きな木にふくべがぶらさがっていて、「行ぐなっちゃ、カラカラ」と鳴っていた。それでもかまわず進んでいくと、

次郎の人物ぞう

けれども次郎は、岩の上のばあさまにいわれたことなど、なあにと思って、「行ぐなっちゃ、ガサガサ」と鳴っているほうへはいっていった。

からすが巣を作っていて、「行ぐなっちゃ、ガアガア」と鳴いていた。次郎がそれでもかまわず進んでいくと、

大きな木にふくべがぶらさがっていて、「行ぐなっちゃ、カラカラ」と鳴っていた。それでもかまわず進んでいくと、

三郎の人物ぞう

三郎は、岩の上のばあさまにいわれたとおり、「行げっちゃ、ガサガサ」と鳴っているまん中の道にはいっていった。

からすが巣をかけていて、「行げっちゃ、ガアガア。行げっちゃ、ガアガア」と鳴いていた。また少し行くと、

大きな木にふくべがぶらさがっていて、「行げっちゃ、カラカラ。行げっちゃ、カラカラ」と鳴っていた。なおもぐんぐん進んでいくと

三郎は、人の言うことをすなおに聞く。
しんちょうさがある人。

⟷

太郎も次郎も、人の言うことをすなおに聞かない。
しんちょうさが足りない人。

まるっきり反対。
→ だから、この話はおもしろい！

デジタル教科書「マイ黒板」のモデル②
「物語の組み立て」からおもしろさをさぐる

家族がピンチ！

中心人物　三郎

はじめ

お母さんは病気でねていた。

太郎は沼の主に、げろりとのまれてしまった。

次郎も沼の主に、げろりとのまれてしまった。

きっかけ

「もしも魔物が出たら、これを使え」といって、よく切れる刀を、三郎にくれた。

三郎は、岩の上のばあさまにいわれたとおり、「行げっちゃ、ガサガサ」と鳴っているまん中の道にはいっていった。

沼の主はそれを見て、三郎をひとのみにしようとおそいかかってきた。けれども三郎が、岩の上のばあさまにもらった刀をびらりと抜いて、切りつけたので、主は切られたところからくさって、死んでしまった。

主題

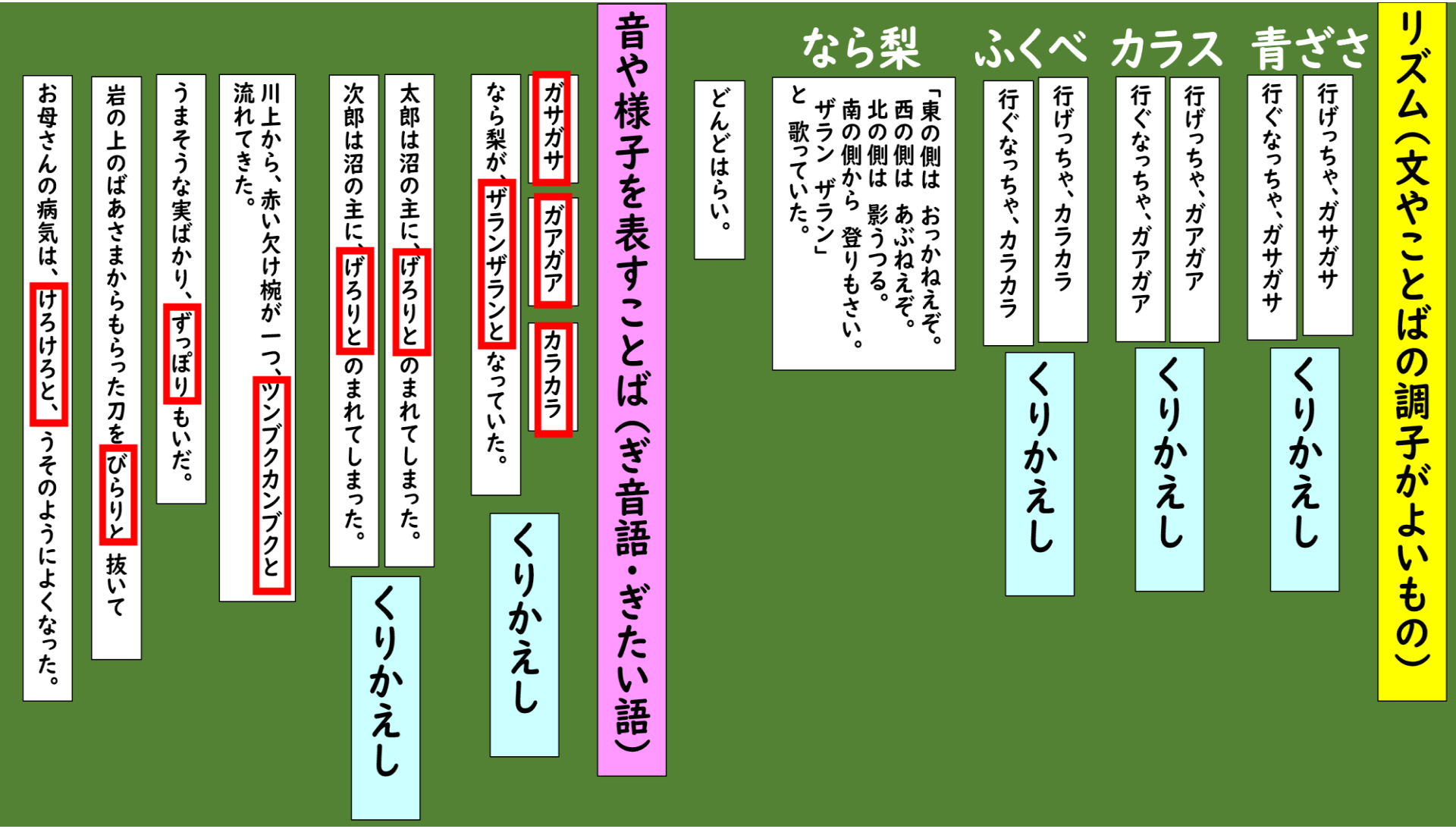
すなおな心。
その道にくわしい
先人のアドバイスは
聞いたほうがよい。

親子でなかよくくらした！

おわり

「まずまず、いのちがあってよかった」と、ふところの赤い欠け椀に沼の水をくんで、二人に飲ませてやると、二人とも、たちまちもとのとおり元気になった。

そこで三人そろってなら梨を持って家に帰り、お母さんに食わせると、お母さんの病気は、けろけろと、うそのようによくなった。

それから親子四人、仲よく暮らしたということだ。

デジタル教科書「マイ黒板」のモデル③
「ことばの使い方」からおもしろさをさぐる